

事項	すももの害虫スモモヒメシクイの発生生態と被害の特徴																																																											
ねらい	近年、県南地域のすももではスモモヒメシクイによる晩生種での被害が増加している。スモモヒメシクイの防除時期を検討するため、発生生態を明らかにしたので参考に供する。																																																											
指導参考内容	<p>1 スモモヒメシクイの発生時期</p> <p>(1) 成虫は、越冬世代が5月中旬～6月下旬（盛期：5月下旬）、第1世代が7月上旬～8月上旬（盛期：7月中旬）、第2世代が8月上旬～9月中旬（盛期：8月下旬）に発生する。</p> <p>(2) 産卵は果実の表面に、5月下旬～9月中旬まで行われる。</p> <p>(3) 県南地域における発生生態の概略は図のとおりである。</p> <table border="1" data-bbox="367 667 1396 1361"> <thead> <tr> <th>1～3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11～12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">幼虫</td> <td colspan="2">幼虫</td> <td colspan="2">幼虫</td> <td colspan="2">幼虫</td> </tr> <tr> <td colspan="3">蛹</td> <td colspan="2">蛹</td> <td colspan="2">蛹</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="3">成虫</td> <td colspan="2">成虫</td> <td colspan="2">成虫</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td colspan="3">卵</td> <td colspan="2">卵</td> <td colspan="2">卵</td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>地中で幼虫越冬</td> <td>幼虫は地中で蛹化</td> <td>越冬世代成虫羽化開始</td> <td>幼果に産卵</td> <td>幼虫が果実に食入・加害</td> <td>果実に蛹室を作り蛹化</td> <td>第一世代成虫羽化・果実に産卵</td> <td>幼虫が果実に食入・加害</td> <td>第二世代成虫羽化・果実に産卵</td> <td>幼虫が果実に食入・加害</td> <td>老熟幼虫が果実から脱出</td> <td>幼虫は地中で越冬</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 被害の特徴</p> <p>幼虫は果実のみを加害するので、新梢の芯折れ被害は生じない。幼虫は果皮下を線状に食害し、加害部は変色したり陥没する。老熟幼虫は蛹になる際、果実の内部から果皮に楕円形の切れ込みを入れて蛹室を作る。</p>			1～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11～12月	幼虫			幼虫		幼虫		幼虫		蛹			蛹		蛹				成虫			成虫		成虫				卵			卵		卵				地中で幼虫越冬	幼虫は地中で蛹化	越冬世代成虫羽化開始	幼果に産卵	幼虫が果実に食入・加害	果実に蛹室を作り蛹化	第一世代成虫羽化・果実に産卵	幼虫が果実に食入・加害	第二世代成虫羽化・果実に産卵	幼虫が果実に食入・加害	老熟幼虫が果実から脱出	幼虫は地中で越冬
1～3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11～12月																																																				
幼虫			幼虫		幼虫		幼虫																																																					
蛹			蛹		蛹																																																							
成虫			成虫		成虫																																																							
卵			卵		卵																																																							
地中で幼虫越冬	幼虫は地中で蛹化	越冬世代成虫羽化開始	幼果に産卵	幼虫が果実に食入・加害	果実に蛹室を作り蛹化	第一世代成虫羽化・果実に産卵	幼虫が果実に食入・加害	第二世代成虫羽化・果実に産卵	幼虫が果実に食入・加害	老熟幼虫が果実から脱出	幼虫は地中で越冬																																																	
期待される効果	スモモヒメシクイの加害を確認でき、防除を適期に実施できる。																																																											
利用上の注意事項	園地により発生種が異なることがあるので発生状況をよく観察し、園地内の発生種を確認する。																																																											
問い合わせ先(電話番号)	りんご研究所 県南果樹部 (0178-62-4111)	対象地域	県南地域																																																									
発表文献等	平成18年度 試験研究成績概要集（りんご試験場県南果樹研究センター） 平成19年度 試験研究成績概要集（りんご試験場県南果樹研究センター・りんご試験場栽培部（特産果樹）） 平成20年度 試験研究成績概要集（特産果樹）（りんご試験場県南果樹研究センター・りんご試験場） 平成21～25年度 試験研究成績概要集（特産果樹）（りんご研究所） 北日本病害虫研究会報 第63号																																																											

【根拠となった主要な試験結果】

表1 すももにおけるスモモヒメシンクイの産卵推移 (平成20年 青森りんご研県南果樹)

品種	5月		6月						7月						8月						9月				
	半旬	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4
大石早生	0.0	0.2	0.7	0.2	0.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ニュー太陽	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.9	9.7	11.6	3.5	3.9	3.3	2.8	-	-	-	-	-	-
秋 姫	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	1.7	7.4	16.3	3.4	8.5	5.9	5.1	5.8	37.9	73.5	25.8	3.8	0.6

- (注) 1 データは5日間の移動平均値を半旬毎に合計した数値。「-」は収穫後のため調査なし。  
 2 調査期間：5月22日～9月16日  
 3 調査方法：「大石早生」、「ニュー太陽」、「秋姫」各2樹を概ね5日間隔で1品種当たり100果への産卵数を調査した。

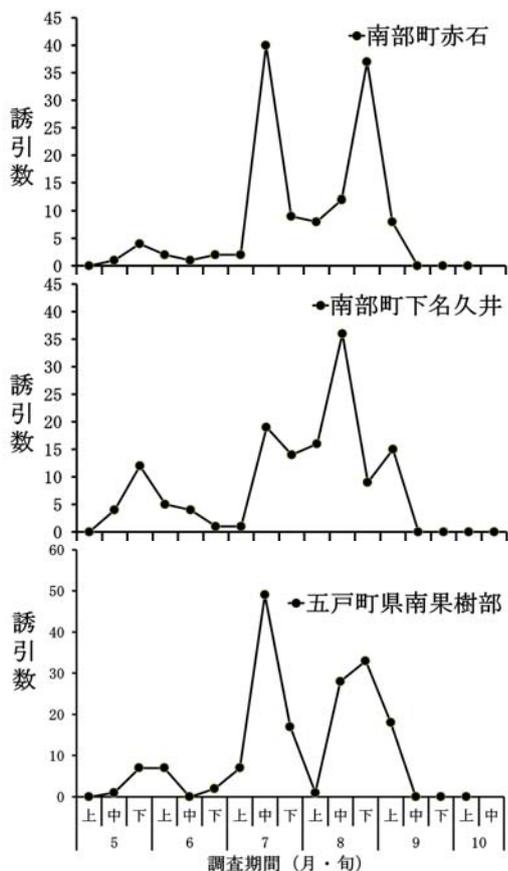


写真1 果実表面に産まれた卵



写真2 幼果内部を加害する幼虫



写真3 果皮下を線状に食害された被害果実 (左) と加害部が変色した被害果実 (右)

図1 県南地域におけるスモモヒメシンクイの発生消長 (平成23年 青森りんご研県南果樹)

(注) 性フェロモントラップによる誘引調査



写真4 幼果に作られた蛹室